



British Politics Today

2013年4月1日
第2巻 第4号

著者 菊川智文,

www.Kikugawa.co.uk
tomo@kikugawa.co.uk

この号の内容

- 1 はじめに
- 2 党首交代?
- 3 2013年予算
- 4 英国国会の女性議員
- 5 テリーザ・メイ内相

1. はじめに

ロンドンでは例年に比べてかなり寒く、なかなか春がやってきません。春を待ちわびているのは一般国民だけではなく、キャメロン首相やオズボーン財相もそうだろうと思います。ユーロ圏の先行きにも不安がある中で、英国の経済も困難なままです。この停滞を吹き飛ばすような風が吹いてくることを祈っているのではないかと思います。

2. 党首交代?

次期総選挙は、2015年の予定ですが、保守党は、経済の低迷に引きずられており、経済が奇跡的に好転しなければ次期総選挙での見通しは非常に厳しいと言えます。

現在の時点では、2005年から党首を務めるキャメロン首相の後任を語ることがあっても、首相を党首の座から引き下ろすという動きは表面化していません。それでもキャメロン首相の信任投票を求めて、保守党の党首選挙も担当する1922委員会の委員長のもとへは、46通必要な議員からの手紙が既に25通届いていると伝えられます。保守党では下院議員の15%が求めれば党首の信任投票が行われます。

過去には、2003年、現在の労働年金相であるイアン・ダンカン＝スミス(母方の曾祖母が日本人)が党首時代にこの信任投票が行われ、信任されずに党首の座を去りました。その後、党首となったマイケル・ハワードがキャメロンとオズボーンを支援し、二人が頭角を現したことから、キャメロンは、この信任投票の制度の恩恵を間接的に受けています。しかし、キャメロンは自らがその犠牲になるつもりはありません。

労働党では現在の党首エド・ミリバンドの兄のデービッド・ミリバンドが下院議員を辞職し、アメリカの国際救援委員会のチーフ・エグゼクティブとなります。デービッドはブラウン前首相の下で外相を務め、2010年の労働党党首選で本命と見られていましたが、弟のエドに僅差で敗れました。人気のないブラウン首相を倒す機会がありましたが、1990年にサッチャー首相に挑んだマイケル・ヘーゼルタイン(メジャー首相の副首相)の言葉「ナイフを振りかざした者は王冠をかぶることはない(‘He who wields the knife never wears the crown’)」が念頭にあり、動きませんでした。

労働党は政権担当中、下院議員の20%の指名を受け、党大会の過半数の承認があれば、首相である党首に挑戦できます。しかし、その数に達しなくても、多くの議員や閣僚が首相を信任しないと宣言すれば、首相は辞任せざるを得なくなるでしょう。

自民党の支持率は低いままですが、2007年から党首を務めるニック・クレッグ副首相を変えるつもりはありません。前任者のメンジー・キャンベルはかつて東京オリンピックにも出場した陸上短距離の選手でしたが、動きがのろいという声が大きくなり、わずか1年半で退任しました。

党首は、党を自己の考えに基づいて導いていく存在で、単に党の顔ではありません。そのため、通常、一度党首となるとかなり長期間務めることとなります。

ナイフを振りかざした者は
王冠をかぶることはない
(‘He who wields the knife
never wears the crown’)

3. 2013 年予算発表

オムニシャンブルズ
から堅実な予算へ

3月20日、水曜日恒例の首相のクエスチョンの後、ジョージ・オズボーン財相が予算を発表しました。財相として4回目です。昨年の予算は「オムニシャンブルズ」と呼ばれ、財相への信頼を大きく傷つけ、直前の世論調査では、政府の経済運営が悪い、オズボーンは財相としてできが悪いと見る人は3分の2にも上っていました。そのため、今回はかなり慎重でした。もちろん非常に厳しい経済環境下、緊縮財政を取る政府のできることは限られています。

日本で予算というと、次年度の歳出歳入の発表というイメージがありますが、英国では、必ずしも次年度に限りません。予算とは、経済・財政に関する声明であり、独立機関である予算責任局(OBR)の客観的な経済・財政予測に基づいて行います。OBRはキャメロン政権で経済・財政予測の透明性、信頼性を高めるために設置されました。予算声明の中で税をいくら集め、どれだけ借金をし、それらをいかに使うかについて、これらの決定の理由とともに述べます。

もちろん予算は極めて政治的なものであり、様々な工夫が凝らされます。普段は政治にあまり興味がない人でも、予算には注目します。そのため、有権者にアピールするものでなければなりませんし、同時に責任ある経済・財政運営をしていることを示す必要があります。

赤字が毎年減っていれば財政は成功している？

オズボーン財相は財政緊縮を行い、政府の財政赤字の拡大を防ぎ、政府の債務をなるべく早く減らし始めることを目的としています。2010年6月の最初の予算では、毎年財政赤字を大幅に減らし、2015年までに政府の債務が減り始める計画を打ち出しました。それ以降、ユーロ危機などで、ユーロ圏外の英国も大きな打撃を受け、経済成長が停滞しています。そのため、税収が予想より大幅に下回り、緊縮財政を継続しているものの、当初の計画の延長に踏み切りました。非常に厳しい経済環境の中ですが、それでも緊縮財政を継続する方針は変えていません。

それでも毎年借入金額が減っているように見せるため、政府内の未使用のお金を使わないよう圧力をかけ、国際機関への支払いを来年度に回すなど懸命の努力をしました。政府の赤字削減策が効果を出しているように見せるためのものでした。

有権者アピール策

ビールの酒税をわずかに下げ、上げる予定だった燃料への税の据置、所得税のかけ始める最低課税限度額は、**2014年4月**から1万ポンド(145万円)とします。共働きの夫婦への子供養育補助を**2015年**から導入します。

経済対策

法人税を**2015年**に20%に下げます。中小企業の新規雇用に国民保険一定額を免除などありますが、今回の予算の目玉と言えるものは、経済波及効果の大きい住宅関連の分野への対策です。英国では住宅は長期的に見れば価値が上がると考えられています。また、住宅が不足しています。その持ち家志向を大幅に刺激する政策を取ることにしました。これは既存の住宅関連政策の効果が乏しいためです。また、若干のインフラ事業も行います。

この予算が成果を生むかどうか、注目されます。

カプチーノ



4.英国国会の女性議員

英国で、女性が下院議員に選ばれるようになったのは、1918年のことです。1987年に女性の割合が5%を越え、2013年3月現在、女性の下院議員は650名中146人で、全体の22%です。2013年2月1日現在の国際比較によると、186ヵ国中65位となります。なお、日本は163位で、衆議院議員480人のうち女性は38人、わずか8%にとどまります。

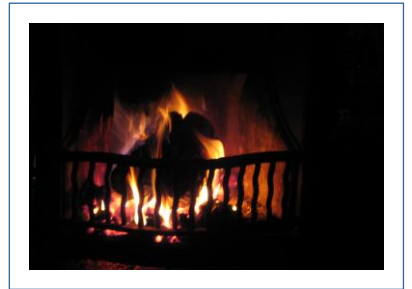
(参照 www.parliament.uk/briefing-papers/SN01250.pdf)

		保守党	労働党	自民党	その他	合計
下院	男性	257	172	50	25	504
2013年3月	女性	47	85	7	7	146
上院	男性	175	157	64	235	631
2013年2月	女性	39	63	26	52	180

英国では女性は主要政党の候補者になることが困難で、しかも候補者となっても当選可能性の低い選挙区であることが多々ありました。例えば、メジャー保守党政権で閣僚となったジリアン・シェパードは1986年に選挙区の候補者に選ばれましたが、その際、3人の保守党支部の党員が離党したそうです。村に帰って、女性を候補者にしたというとなんにも笑われるからというのが理由だったそうです。

(次ページへ)

まだ暖炉の必要なロンドン



雑記

政府は、公務員の能力向上のために、公務員改革プランと「コンピテンシー・フレームワーク」を導入しました。しかし、これらに本当に効果があるか疑問があります。

<http://www.civilservice.gov.uk/wp-content/uploads/2012/07/Civil-Service-Competency-Framework-July-2012.pdf>

日本では公務員の人事は、通常人事部門が行いますが、英国では、公務員は自ら他のポストに応募し、インタビューを受けてポストに採用され、仕事を変える制度を取っています。

「コンピテンシー・フレームワーク」は「あるべき姿」を想定して「効果的な行動」をする人とそうでない人を描いています。10のコンピテンシーを識別して採用、トレーニングなどに利用されますが、このフレームワークでは、候補者の査定の上で新たなティック・ボックス・メンタリティを生む可能性が強いように思われます。つまり、それぞれのボックスにティックすればよしと考え、全体的に見ようとする傾向が出てくる可能性があるということです。

さらに問題は二つあると思います。一つは、選考する人の能力です。これまで比較的狭い公務員の世界で、政策の策定を中心に出世してきたジェネラリストの人の査定能力がどの程度有効かです。それをカバーするためでしょう、コンサルタントをよく使っているようですが、これらのコンサルタントに本当に人物を見る能力があるのでしょうか。

次に、このフレームワークで明示されているリーダーシップのあり方が極めて一面的です。実際にはもっと多様なリーダーシップのあり方があるように思われます。

こういうフレームワークを作ることで、同じようなタイプの人を量産し、平均的な幹部が増える一方、本当に物事を成し得る才能がこれまで以上に埋もれてしまうかもしれません。

4. 英国国会の女性議員(続き)

それでも近年着実に女性の割合は増えています。1992年には60人、1997年には121人となりました。1997年には労働党は、選挙区を選び、選抜候補者すべてを女性とする方針を打ち出しましたが、途中でそれが違法と判断され、中止しました。それでも101人の女性下院議員を生み出しました。

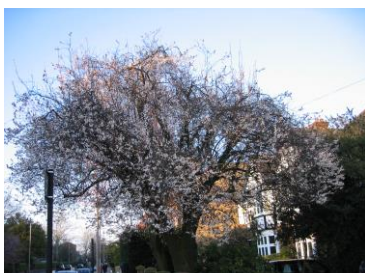
労働党は、女性だけの選抜候補者リストを合法化する法律を制定し、2005年、2010年にはそれを積極的に進めました。2010年は全体の当選者数が減少したため、女性議員の数は減りました。現在、その下院議員の3分の1が女性です。

保守党は党本部推薦候補のいわゆるAリストに女性を半分入れて女性の議員の数を増やそうとしていますが、女性の割合は労働党の半分です。

主要3政党の中でこの点で最も弱いのが、自民党で、わずか12%にとどまります。自民党が強い選挙区は男性だけで、現在の支持率では女性議員がいなくなる可能性もあります。

女性閣僚は、現在のキャメロン連立政権では、22名中4名、前ブラウン労働党政権の2009年6月の内閣改造後4人、そしてブレア労働党政権の最後の内閣には8人いました。最初の女性首相サッチャーの保守党政権は1979年から1990年まで続きましたが、女性閣僚は、1982年から1983年のヤング女男爵だけでした。その後のメージャー保守党政権の最初の内閣には女性は誰もいませんでした。

なお、上院では、1958年一代貴族法が設けられ、初めて女性議員が誕生しました。



少し咲き始めた桜

5. テリーザ・メイ内相

2013年2月のBBCの英国女性パワーリストで、メイ内相(1956年10月1日生まれ)は、エリザベス女王に次いで第2位でした。

保守党の右寄りで、欧州懐疑派であり、キャメロン後の保守党党首候補として、ロンドン市長のボリス・ジョンソンと並ぶ有力候補となっています。

オックスフォード大学で地理学を学んだ後、イングランド銀行など銀行関係で働き、また、ロンドンのマートン区議会議員も務めました。

そして勝つ見込みの乏しい選挙区から立候補し、下院議員選挙で2回落選した後、1997年の総選挙で下院議員に当選しました。1999年には早くも影の閣僚ポストの影の教育雇用相となり、2002年には、イアン・ダンカン＝スミス党首の下で、女性として初めての保守党の幹事長となりました。

2010年総選挙後、キャメロン首相に内相のポストを与えられました。内相は、首相、財相、外相と並ぶ四大ポストの一つで、警察、移民、テロリズムを扱う最も困難なポストの一つです。ブラウン労働党政権下でジャッキー・スミスが女性として初めて内相になりましたが、キャメロン政権で財政緊縮を進める中、この仕事はさらに厳しいものとなっています。先走った発言で何度か苦境に立ちましたが、今ではかなり手堅い大臣と見なされています。

警察の財政削減を進める立場であり、人員削減や給与凍結などで警察官から批判されています。国境局を実施機関から内務省管轄に戻し、移民削減を率い、大量の未解決のケースの処理に取り組んでいます。さらには、テロリスト容疑者を国外退去させるための先頭にも立っています。特に移民の問題は困難で、今後どのように推移するか不透明です。内相として、個人的な脅迫を受けたことが、2012年4月、さらに2013年3月にも明らかになりました。

保守党の活動家らの集会で、内務省の仕事の領域を離れ、経済などの分野にも触れたスピーチをしたことから、キャメロン後の党首への意思を表明したものと受けとめられ、キャメロン側近から叱責されたと言われます。

引用、転載には引用先、著者名を明記して下さい。

コメント・配信お申し込み : tomo@kikugawa.co.uk